

21 世紀の生命を育む

# はしもと小児科

〒954-0112 見附市上新田町 449-7

TEL 0258-61-2400, 予約専用 61-2401, FAX 61-2402

<http://www.mynet.ne.jp/hasimoto/>

院長 橋本尚士:新潟大学医学博士,日本小児科学会認定小児科専門医,日本アレルギー学会認定アレルギー専門医



## 吸入器の取り扱い・吸入療法のコツ

喘息のお子さんには吸入療法をお勧めします。小さいお子さんは自分で上手に吸入することができないので、加圧式吸入器(圧力で吸入液が勝手に気管支に入っていく)が必要です。

### <注文>

当院より、小木医科器械(0258-24-5331, 長岡東バイパス新組交差点付近, 新幹線高架交差部)に吸入器(ボヤージ)とネブ球(日商式)を代行発注します。商品が届きましたら、当院からご自宅に電話連絡します。代金(25000 円程度)は小木医科器械に銀行振込で直接支払って下さい。在庫にもよりますが、約1週間かかります。連絡がない場合には当院に再度お尋ね下さい。

### <吸入液>

吸入液は当院で処方します。

1. DSCG(インタール, ステリネブクロモリン吸入液)は抗アレルギー剤で喘息発作を予防する薬です(発作を直接止める作用はありません)。発作の回数が減り、たとえ起きても大きな発作になりにくくなります。早期に低年齢から吸入を始めた方が予防効果が高いことが証明されています。発作のない時にも朝、眠前にきちんと吸入して下さい。

2.  $\beta 2$  刺激剤(メプチン吸入液ユニット)は気管支拡張剤で、発作そのものを止める作用があります。しかし、気道過敏性を改善する作用はないので、喘息の長期予後を改善しません。使用頻度が高い場合には日頃の治療が不十分ですので、内服薬の種類や量、ステロイド吸入量などの見直しが必要になります。ご注意ください。

### <実際の吸入療法>

1.非発作時 DSCG(インタール, ステリネブクロモリン吸入液)1-2mlを朝、眠前に吸入して下さい。1本 2mlです。1日に1-2本使用します。

2.発作時 DSCG(インタール, ステリネブクロモリン吸入液)1-2mlにメプチン吸入液ユニット3-4滴を加えて吸入して下さい。メプチン吸入液ユニット 3-4 滴だけでは量が少ないので、うまく飛びません。1回メプチンを吸入して喘息の発作がおさまれば、様子を見て下さい。メプチンを吸入しても効果がない場合には、20-30分後にもう1度メプチンを吸入して下さい。喘息の発作がおさまれば、様子を見て下さい。自宅での吸入は1晩に3回までが限度です。3回メプチンを吸入しても発作が止まらない場合には、受診が必要です。

3.発作時の併用薬: $\beta 2$  刺激剤(メプチン吸入液ユニット)の吸入で発作がおさまらない場合には、 $\beta 2$  刺激剤貼付薬(ホクナリンテープなど)または $\beta 2$  刺激剤内服薬(ホクナリン, スピロペントなど)を併用してかまいません。

(\*  $\beta 2$  刺激剤貼付薬(ホクナリンテープなど)と $\beta 2$  刺激剤内服薬(ホクナリン, スピロペントなど)は併用しないでください。)



## <取り扱い>

- 1.別売のガラス製ネブ球を使用して下さい。吸入器付属のプラスチック製ネブ球では、吸入液がうまく飛びませんし、汚れがたまり不潔です。使用方法が分からない場合にはお尋ね下さい。
- 2.ネブ球は使用するたびに水洗いをして下さい。1週間に1度は温湯で洗浄しミルトン等で消毒をして下さい。
- 3.ネブ球についている小さな黒いゴム栓をなくさないように注意して下さい。なくした場合にはコルク栓を削るか、ホームセンターで似たものを探して使用して下さい。ゴム栓だけを購入することはできません。
- 4.ネブ球を噛んで割るお子さんがいますので注意して下さい。
- 5.ネブ球内面がカビで黒ずんだり、割れた場合には、新しいものを購入して下さい。ネブ球にはまれに不良品があります。吸入液が出ない、霧状にならないなどのトラブルがある場合には新しいものに取り替えてくれます。当院に御連絡下さい。
- 6.吸入器とネブ球をつなぐチューブは数カ月に1度は新しいものに取り替えて下さい。カビや雑菌がついて不潔です。ホームセンターで同じ径のビニールチューブを1.0-1.5m お買い求め下さい。
- 7.うまく吸入できないお子さん、ネブ球を噛んでしまうお子さんには、ネブ球先端につけるクマさんマスク(約 900 円)があります。購入御希望の方は御相談下さい。
- 8.アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、鼻炎などの鼻閉に用いる場合には、ネブ球先端につける鼻管(約 630 円)があります。購入御希望の方は御相談下さい。

## <ポイント>

- 1.喘息の発作が起きたら直ぐに吸入をして下さい。ぐずぐずしていると気道の炎症が進んで、大きな発作になることがあります。たき火(小発作)はバケツの水(吸入、点滴)で消すことができますが、家が火事になれば消防車(入院)を呼ばなければいけません。
- 2.吸入器は鼻にも使用できます。アレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎にも有効です。ネブ球先端につける鼻用のアダプターは別売です。吸入液が異なりますので、御相談下さい。
- 3.吸入器は大人も使用できます。風邪をひいて喉がいがいがする時、鼻がつまって苦しい時、痰が絡んで苦しい時にご利用下さい。吸入液がない場合には、水道水でも気持ちいいものです。

## <注意>

- 1.陥没呼吸(喘息の発作が激しくて肩で息をして、胸のまん中がへこむ)やチアノーゼ(顔色が青白い)がある場合には入院が必要です。まれに、夜間休日に突然大発作になることもあります。この場合には救急病院を受診して下さい。
- 2.喘息はこどもの病気のなかでは決してめずらしくありません。しかし、日本国内で年間50-100人は窒息などで死亡しています。人口動態統計によれば、死亡理由は男児では第5位、女児では第8位が気管支喘息です。
- 3.環境整備に加え、内服薬、吸入薬などを上手に利用して発作を起こさないようにしましょう。

